

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月	19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (平成29年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
アジアこども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (平成29年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	274
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	65
	実践保育学科	110
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	806
東大阪大学柏原高等学校	普通科	722
東大阪大学附属幼稚園		267
合計		2,244

4) 役員・教職員等の概要 (平成29年5月1日現在)

- (1) 役員 理事 7人
監事 2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員 331人

	教 員		職 員		合 計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	9	11	20
東大阪大学	24	29	13	7	73
東大阪大学短期大学部	28	17	19	3	67
東大阪大学敬愛高等学校	42	11	8	3	64
東大阪大学柏原高等学校	54	12	10	6	82
東大阪大学附属幼稚園	16	1	6	2	25
合 計	164	70	65	32	331

2 平成29年度事業計画における進捗状況等

1、はじめに

平成29年度は「働くママを応援します」プランの推進と、「幼稚園教育の中身の充実」の2本柱で運営に力を入れた。15人の園児が保育園から年少・年中へと入園するという過去に例を見ないような入園状況となり、本園の運営の2本柱が保護者に浸透し始めた実感できた。今後もこの運営方針を維持し、中身の充実を図ることこそ園児獲得の大きな力になると確信している。詳細については下記のとおりである。

2、幼児教育の質の向上

新卒者の1人がサクランボルーム担任、2年目教員が年少担任、3年目教員が年中担任となり、多数のベテラン教員との年齢格差を考慮し、学年や幼稚園全体で教育内容の質のばらつきが生じないように学年担任編成を配慮した。これまでは、各学年に主任を置き、主任のリーダーシップで学年運営してきたが、今年度からはマネージャー制に変更し、マネージャーが学年の意向を調整し意思決定をする方向に変更した。不慣れで戸惑いもあったが若年層や中間層の教員の意識が変化してきた。次年度もマネージャー制を継続し、幼稚園全体の教育活動の一層の活性化をし、教育の質の向上を図りたい。又、新しい幼稚園教育要領に基づいた保育研究授業も、若手教員とベテラン教員ともに昨年度より多く研究保育が実施できた。園長や研修主任の模擬授業も入れながら少人数での保育反省会も実施し、2年目に入る保育研究も軌道に乗り始め、年間反省会や初年度の年間計画の内容もその成果が反映されてきた。保育の質の向上は一夜にしてはならず、しかし、着実に進化変容しなければならないことなので、次年度も継続的に保育研究は推進していきたいと考える。

3、2歳児未就園体験保育（サクランボルーム）の充実

今年度も50人の定員を超える応募があり、その多くが入園してくれた。1日制から2日制への移行も柔軟に対応し、3学期からの1日保育体験に無理なく繋げ、幼稚園入園への体験を充実させていった。また、親子の母子分離も早い時期に実施するなど、2歳児の子どもの自立心を徐々に高め、家庭ではできにくい保育内容を準備し、母子ともに教育支援を行った。その成果は大きく、年々サクランボルームへの希望者は年々増加してきた。園児獲得と共に、子育て支援活動を豊かにし、次年度も中身を充実させていきたい。

4、預かり保育の充実

今年度は、年少児の預かり保育利用が多くなった。保育園からの転入や、フルタイムでも幼稚園で教育を受けさせたいという保護者が多くなり早朝や延長預かりや、土曜預かりも増加した。「働くママを応援します」プランが浸透してきた実感している。課題としては、年少児が長時間在園することから、預かり保育の保育内容の見直しが必要になってきた。お昼寝やおやつの内容などを見直したが次年度からは担当人数も含めて大きく中身を改善していきたい。

5、本園の特色ある取り組みの充実

本園の特色の一つとしてのキッズファームでの自然体験学習は食教育、環境教育にも通ずる具体的な取り組みとして評価が高い。園選定にあつたの、保護者アンケートでも常に上位に位置している。しかし、その維持・運営は年々厳しくなっている。しかしながら、教職員全員が維持管理し、他園でまねのできないキッズファームを通しての教育を進めていきたい。また、ウサギ、ニワトリ、カメ、シカ、メダカなどの生き物とのふれあいを大切に、楽しみながら協調性や忍耐力などを育ててきた。又、花壇の水やり、ウサギ当番などの係活動など、今後も継続し本園の特色をさらに広げていきたい。

6、幼稚園ホームページ・ブログの充実

担当教員が日々子どもたちの撮影をこまめにし、ブログ配信を行ってきた。働く保護者、バス通園などの保護者も、幼稚園での様子が具体的にわかり、子どもの話と併せて幼稚園での活動を知ることが出来、好評であった。ホームページもお知らせや写真を多く入れ、わかりやすく見やすいホームページ作りを心掛けた。新入園児のほとんどはブログを見て本園へ見学に来られた。新しい情報が一番大切なので今後も継続したい。

7、卒園児の夏季休業中の預かり保育の実施、小学校、地域との連携

今年度も小学3年生までの夏季預かり保育の実施をした。多数の参加があったので今後も継続

していきたい。配慮を要する子の小学校への接続も園長・担任とで実施できた。地域自治会、老人介護施設との連携も行事を中心に実施でき今後も継続していきたい。

8、評価育成システムの試行実施

試行実施ではあったが面談や開示面談での教職員との意見交換は大変有意義であった。時間もかかるが、個人の力量を高める項目とともに、幼稚園全体の経営や活性化など一人一人が日常考えにくい事柄なども評価項目に入れていたため、教職員の視野を広める事にも今回の試行は大きな意味があった。厳しい学園経営を一人ひとりが力を合わせていくことにつながるよう次年度、臨みたいと考える。

9、次年度に向けて

2歳保育の動向、消費税導入に係る幼稚園無償化の動向を注視し、私学助成型の幼稚園としての園児獲得を検討したい。

3 財務の概要

別添	平成29年度	資金収支計算書	
		事業活動収支計算書	
		貸借対照表	
		財産目録	
		監査報告書	参照